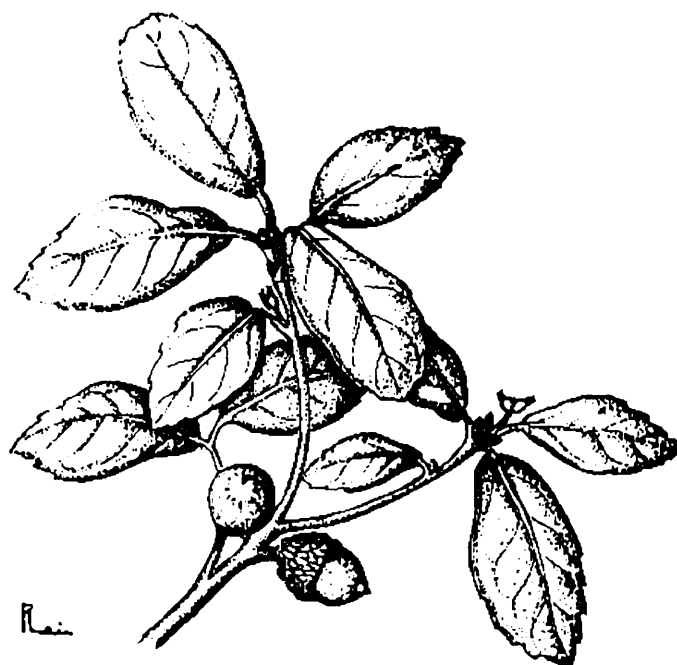


協議会ニュース

84号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

2002.9



近畿・東海地区自然観察指導員連絡会交流会	2, 3
知多支部20周年記念大会（第2回）	4
「なごやメダカを知りました！！」	5
「天白川ふれあいウォーキング」	6
「醒ヶ井のハリヨを観察しよう」／「朝倉川ナイトウォッチング」／	
「極楽峠と南信濃の旅」	7
トピックス	8
会員リレー	9
「アボイ岳でウォッチング」	10
理事会だより	11
コラム／編集部だより	12

Special Report

近畿・東海地区 自然観察指導員連絡会交流会

第5回

目の自然観察指導員連絡会の東海・近畿ブロック会議が、8月3～4日に奈良県の主催で大台ヶ原で開催されました。参加は、愛知県・三重県・京都府・奈良県とNACS-Jの中井普及広報部長の19名で、本県からは、近藤記巳子、佐藤国彦(夫婦)、鈴木ひろ子の4名でした。大台ヶ原の手前のダムで土砂崩れがあり、大峰の行者還トンネル経由で入ったため、現地到着は4時をかなり過ぎて、会議の開催は5時頃からとなりました。初めに、地元の方から大台ヶ原の自然と伝説の話があり、夕食後に各県の活動状況の交換があり、その後懇親会での情報交換が夜遅くまで続き、自然に関する面白い話がたくさん出ました。

翌日は、5時頃から西大台の観察を1時間半程度行い、朝食後東大台のコースを半日歩きました。



日 程

● 1日目(8月3日) 受付、開会

- 研修① 講演「大台ヶ原の自然と民話」(1時間40分)
講師：田垣内 進一 氏(大台ヶ原大教会 教長)
- 研修② 参加者と各連絡会の活動紹介(1時間30分)
自然観察会の果たす役割と連絡会の活動について
- 研修③ 自由討論・懇親会

● 2日目(8月4日)

- 早期観察会(希望者) 西大台ナゴヤ谷周辺(約1時間30分)
(ブナ林と林床・オオダイガハラサンショウウオ等の観察)
- 現地研修東大台コース(約4時間45分)
(大台荘―展望デッキ―正木峠―牛石ヶ原―大蛇ぐら―シオカラ谷―大台荘)

◎平成14年8月3～4日
◎奈良県吉野郡上北山村大台ヶ原
●報告／名古屋支部・佐藤国彦

Special
Report

各県の活動状況

三重県

は、13～4年前以後から講習会が6回ほど開催されている。支部はなく、各地でグループが集まって活動し、連絡会はそのネットワークをまとめたり、研修を行うためにある。新指導員をいかに多く活動に参加させるかが課題とのこと。

京都府

は、会員130名。連絡会が中心になって活動を進めてきた。対外的活動（観察会の実施、ガイドブック作成等）と対内的活動（定例会、機関誌の発行）を車輪の両輪として進めてきた。会員は職業や社会的地位などに関係なく一人の市民として対等な立場で会に参加し、幹事会での民主的な話し合いで会を運営している。自然観察会は会員が対等な立場で協力して作り上げる「共同作品」で、会の名前と責任で実施するようにしている。自然観察会は教えるのではなく参加者と一緒に楽しむ、考える姿勢をモットーとしている。来年度にNPO法人になることを目指している。それとともに世代交代、事務局の分担制を行おうとしている。

奈良県

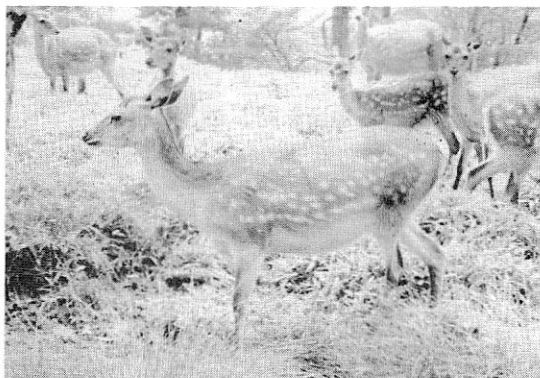
は、10年位前に設立され、その後講習会は1回開催。会員は70名。生駒の自然を守る会など地域の活動を中心としており、連絡会は幹事10名で

定例観察会、休耕田の遷移調査、機関誌の発行などの事業を行っている。

話を聞いて感じたのは、指導員発足当時は、連絡会が中心となって観察会などを企画していたが、今では活動の中心が個人やグループになり、連絡会はそれらの情報交換、ネットワーク化の場となりつつあることである。

◆ ◆ ◆ ◆

最後に中井部長が次のように総括された。「全国の連絡会もスタイルが多様化しているのも、活動する個人等と連絡会の関係が様々であることなのであろう。また、各連絡会が世代交代に悩んでいるとのことであり、自然保護と自然観察の結びつき方が問題になっているのも同じ背景にあると思われる。こうしたことから連絡会のNPO化に際して、ネットワークとして機能している連絡会の事業の範囲が不明確となるなどの問題が生じるのであろう。」



知多支部20周年記念大会報告（第2回）

※前号にひきつづき、「知多支部20周年記念大会」の報告です。

記念式典

13時半からの記念式典には、早川知多市助役、戸谷知多地域教育委員会教育長、森愛知県自然環境課主幹はじめ多数の来賓の列席を得、内輪から大竹愛知県自然観察指導員連絡協議会会長の出席を得て、それぞれご祝辞な

らびにご挨拶をいただきました。私たちも地域の一員として、また自然をこよなく愛する者たちとして、行政や地域の人々と手を携え、自然保護に一層努力していこうとの思いを強くしました。

記念講演

記念講演は名古屋鉄道南知多ビーチランド副所長柏原正尚氏による「伊勢湾の環境と生き物」と題したお話でした。会場はほぼ満席の120名余。

「伊勢湾は南北約50キロ、東西約20キロで水深が一番深い所で35メートルの穏やかな内海。湾の中央部に古い木曽川の跡がある」と研究者ならではのお話でした。この湾

内で世代を連綿とつないで来た生物や、南方からはるばるやってきた珍しい魚、変わった生態の魚、あるいは目を奪うばかりに鮮やかな魚たちの紹介など、興味あふれるお話でした。怖いシュモクザメ（鮫）も常時いるといわれました。ただし2メートル以下がほとんどだからそんなに心配はいらないということでした。

資料展示室と式典会場の様子

今回2日間のこの行事への延べ参加人数は、一般のかたがたの参加も多く、軽く300人を超える盛況な結果でした。

今回の活動で、休眠中であった会員がこれを機に活動を再開した。また県レベルで他の観察会メンバーとも知己を結ぶことが出来た。

何にもまして、自分たち手でこの記念行事をやり遂げたことの喜びと自信。会員同士のより確かな絆が生まれたことは、予想に入っていなかった大きな成果として、次なる活動に期待が膨らんできます。

平成14年6月16日（知多支部・畠 烈）

知多支部のみなさん！！ありがとうございました。



なごやメダカを知りました！！



7月20日、東山動物園メダカ館において「なごやメダカを知っていますか？」と題して、講演や館内見学が行われました。当日は子ども20名を含む総勢約50名の参加があり大盛況。参加者の声をお届けします。

講演の中で印象深かったのはメダカの科学分野における貢献度です。驚くことに遺伝子はヒトと酷似しており、世代交代も1年に6、7代という超スピードでバイオテクノロジーや環境ホルモン研究に大活躍とのこと。だから宇宙まで飛んでいったんだと遅まきながら納得いたしました。

3Dハイビジョンでの誕生シーンやゲンゴロウによる捕獲シーン上映は、大人も思わず興奮。バックヤード見学では800もある水槽の数に圧倒され、飼育者のご苦勞の一端を垣間みることもできました。皆で身近な自然を大切に、写真でも標本でもない本物にいつでも触れられる環境こそ、人の優しさを育てていくのだと思います。

(尾張支部・飯島ひろこ)

メダカ館に入ってまず目を見張りました。メダカってこんなに種類の多いものなの？！展示数約240種。世界中のメダカの大集合です。さらなる驚きは吉田講師のお話。人間とメダカは同じ脊椎動物に属し、遺伝子的には何と93%同じとのこと。それに旺盛な繁殖力を買われ、人間のバイオテクノロジーの研究に大活躍しているそうです。

これほど元気なメダカが、なぜわが国で絶滅を

叫ばれているのでしょうか？昔のように冬でも水路に水のある水田が減ったため生き残る場所を失ったのが大きな原因だそうです。それから3D立体映像の迫力に息をのんだ後、展示メダカ繁殖のためのバックヤードを案内していただき、すばらしい体験をしました。

メダカをもっと知るためにメダカ館に出かけてみませんか。私たちの身近に、もっとメダカの住める環境を増やしてみたいものです。

(尾張支部・古川俊江)

世界でも唯一というメダカ館を見学できるという幸運に恵まれました。バックヤードへ入ってのぞいてみると、表からは想像もできないような、「ふしぎ」で「たいへん」な世界がみえました。自然のメカニズムを人工的に作るのたいへんさと、同時に自然のすばらしさを今ひとたび感ずることができました。小さな命が、こうしたたくさんの方々力で育まれていることに感動いたしました。

(瑞穂子どもの家・名古屋支部・森下京子)



～瑞穂子どもの家～子どもたちの感想



- ・メダカはちっちゃくてかわいかったよ。尾びれがかわいかった。えいがで、タガメにメダカが食べられてかわいそうだった。(1年・るな)
- ・メダカの口が目の上にあるとは知らなかったです。(2年・ゆり)
- ・メダカはスイスイおよいでいるよ。ちょっとのぞいてみたら、びっくりしてすみっこにあつまったよ。(2年・まや)
- ・なごやメダカは、昔たんぼの水がでるどぶ(水路)で暮らしていたということがわかった。今は水路がなくなって住めなくなった。(3年・ゆり)
- ・世界にはすごくメダカがいるんだなと思った。美しいメダカがたくさんいた。いろんなメダカがいてすごいと思った。(4年・ふみあき)

天白川ふれあいウォーキング

平成14年6月29日(土) 9:00~

天候: くもり

◎主催: 第4回市民がつくる災害に強いまちづくりの集い実行委員会

午前9時野並公園集合。参加者100名、スタッフ20名。主催者挨拶のあと、生活(ゴミ)班・地形班・生物班・歴史班に分かれる。私は生物班の担当で、生物班はさらに3班にわかれて大人3名、子供5名の8名を預かって出発。

コースは、集合場所から野並橋へ出て、そこから天白川を河口に近い天白扇橋までを、堤防沿いに歩く。野並橋から天白橋近辺までは、水辺に降りるところもなく、もっぱら植物観察になってしまった。

それから先、星園橋近辺まではところどころに中州のような浅瀬があって、水辺での観察もできた。

ヨシを見つけたとき、子供たちに笹舟の作り方を知っているか聞いたところ、知らないとのことでしたので、作り方教室となり、中州へ降りてそれぞれの作品を流した。

アメリカまで届くかなあ・・・

～全行程7km～



(名古屋支部・中西たかお)



●観察したもの●

アカバナ、シロツメクサ、オオバコ、クズ、ヨモギ、カタバミ、キキョウソウ、セイタカアワダチソウ、ナンキンハゼ、ヤナギ、アレチハナガサ、ススキ、ヨシ

イトトンボ、アメンボウ、アメンボウの子供

キセキレイ、カラス、コサギ、ダイサギ、カワウ(どういうわけか、コブハクチョウが川岸に近い水面で観測された。)

コイ、コイの稚魚の群れ、カニ、ゴカイ、干潮で取り残されたクラゲ、カイツブリの死骸(途中釣り糸を垂れている人に聞いたところでは、ナマズ、ライギョ、フナ、ボラなどが釣れるとのこと。)



—東三河支部観察会—

「朝倉川ナイトウォッチング」

豊橋市内・多米公園～朝倉川～内山川

日時：平成14年6月8日（土）夜

天候：くもり

参加者：49名・会員16名

☆☆☆

6月には昨年に引き続き夜の観察会として「朝倉川でナイトウォッチング」が実施されました。夕暮れの空の色やコウモリの超音波（機械で聞きます）、田んぼで鳴くカエルの合唱などを楽しみました。また、最盛期は過ぎていたものの、ゲンジボタルの飛び交う姿も見られ、

中には初めて見たと感激する人もいました。

（寺本和子）



多米公園

「醒ヶ井のハリヨを観察しよう」

滋賀県米原町醒ヶ井の地藏川

日時：平成14年7月20日（土）

天候：はれ

参加者：会員6名

ちょっと人数少ないけれど、天野さんのワゴンにゆったり収まって贅沢旅行。最初の目的地は、醒ヶ井の地藏川のバイカモとハリヨの観察です。駅前から地藏堂下の湧水池まで徒歩でじっくり見学しました。中山道沿いのこの川は、うらやましいほど澄み切って、生活と密着していました。折から、雨の後で水量が多く、バイカモはどっぷり水につかり、水の上に顔を出すという花はほとんど見られませんでした。水の

淀みには、ハリヨがちらちら姿を見せ、鮮やかな婚姻色も見られました。昼は、養鱒場のそばで鱒づくし。これも結構。結局、琵琶湖には行かず、大垣をまわって帰りました。

（間瀬美子）



ハリヨの住む川

*ハリヨ：巣を作る魚で知られるトゲウオの仲間で、現在最も南に生息するイトヨ科の魚。巣は底の植物の破片等を体から出る液体で繋ぎ合わせ、入り口と出口のある目立たない巣を作ります。

「極楽峠と南信濃の旅」

長野県南信濃村周辺（極楽峠～青崩峠～竜頭山）

日時：8月3日（土）～4日（日）

天候：大体晴れ

参加者：会員14名

早朝、3台の車を連ねて北へ向かった一行。浪合から下条へ抜ける極楽峠には初見参の人も多かったようです。ぶな林と三十三観音の道は、時にすっぽり足元が抜け落ちていて地獄やら極楽やら？阿南の化石館、和田の城など見て青崩峠に一番近い宿「島畑」へ。夜の学習もあって、二日目は兵越峠経由、南から青崩峠に挑戦。ちょっとインチキもあったけれど、全員、中央構造線真っ只中の峠に立

ちました。山住神社と秋葉神社を結ぶスーパー林道は、展望抜群の尾根道ですが、もやって展望はきかず残念。でも、下界より涼しかったようでした。（間瀬美子）



参加者のみなさん

行事予定

※事前にお問合せ下さい。

日時	行事名	場所	内容	問合せ
9/23	名古屋支部20周年 記念行事	名古屋市 農業センター	観察会、クラフト教室、竹 伐り、講演、パネル展示等	(052)782-2663 滝田さん
9/28～29	名古屋支部研修会	福井県	中池見湿地視察	同上
10/6	渥美の自然を守れ！伊良湖 フォーラム	伊良湖ビュー ホテル	「レッドデータブックあいち動 物編」の執筆者を講師に招聘	0531-45-2607 大羽康利さん
11/9	尾張支部研修会	瑞浪市化石博 物館及びその 周辺	博物館見学、化石採集・観 察、地層の観察など	(0568)68-2792 山岡雅俊さん
11/16, 17	自然観察指導員研修会	刈谷市	ネイチャーフィーリング (車いすを使った自然観察 指導)	愛知県環境部自然環境課 052-961-2111(内)3065 石田さん
11/17	一色の磯の自然を探ろう (東三河支部)	赤羽根町一色 海岸太平洋ロ ングビーチ	海岸の自然をさまざまな角 度から観察しよう	(0532) 47-0331 影山博史さん

おしらせ

★★★「自分のフィールドで観察した生物をもとに生物ごよみを作ってみては？」★★★

編集部では広く自然観察指導員に呼びかけ、身近なフィールドでの生物情報を収集したいと思っております。例えばこれからの季節だと、「モズの高鳴き」、「ヒガンバナの開花」、「ジョウビタキ・ツグミの飛来」などさまざまなものが考えられます。また、観察記録の様式を協議会内で統一することにより、各支部間、観察会間での情報交換もしやすくなるため、斎竹さん（尾張支部）のご協力により下記フォーマットを作成いたしました。ご協力いただける方は、住所・氏名・支部名を明記の上、下記フォーマットでの観察記録及びご意見を編集部までお送り下さい。（裏表紙の編集部住所まで郵送願います。）なお、「尾張自然観察会ホームページ」では先行して、情報収集が行われております。インターネットが使用できる方は、そちらも参考にしてください。今後、募集方法・集計結果の公表方法等は検討していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

※尾張自然観察会ホームページ：www5.justnet.ne.jp/~symbio21/

●フォーマット＜記入例＞

【県 名】愛知県
【場 所】岩倉市自然生態園
【環 境】水田地帯
【年月日】2002年6月22日
【時 刻】14:00頃
【天 候】はれ
【観察者】斎竹

【観察種】ウスバキトンボ 2頭 目視

【備考】トンボ池の横の草原の上を風に乗って飛んでいた。

【雑記】生態園からの帰りに、民家の横の畑で早くもオミナエシの黄色い花が咲いていた。夏になったと思ったらもう秋の七草で、季節感も薄れてしまった。

【観察種】種名及び状態を記述。動物の場合は、確認方法（目視、捕獲、鳴声確認、フィールドサイン確認など）も追加

【備考】観察に関連した補足を記述する欄

【雑記】なんでも感じたこと、見たものなどを記述する欄

会 員 リ レ ー

【間瀬美子】（ませよしこ・東三河）

鈴木友之さんへのバトンでしたが、この所体調不良とこのとで代走になりました。

敗戦後数年は、最も腹ペコの時代でした。その頃あった学校の宿題、知っていますか？



◎ドングリ集め、ヒガンバナの球根集め→何でも、これらからデンプンを探り出して食料にするんだとか。

◎クワの木の皮→本当に役立つ繊維が取れたのかなあ。

◎イナゴ取り→学校の大釜に湯が煮えたぎっていて、イナゴを持っていた。夏休の宿題は乾草4貫目。

その度に野山田畑を駆け回って、勉強とは自然にどっぷり漬かることでした。そんな下地があつてか、いまだに自然のなかを歩き回っています東三河、まだまだ自然豊です。

★バトンを渡す人

知多の村瀬由理さん、お元気ですか。リレーのバトンタッチお願いします。

【小山舜二】（こやましゅんじ・東三河）



鞍掛山麓四谷の千枚田のこと

平成3年、先人の遺産千枚田はこのままでは荒廃してしまうと思い立ち、写真を通して、また、自然観察指導員となり、千枚田の保存を呼びかけてきました。おかげで現在では全国的

に千枚田の意義が再認識され、私たちの千枚田もこの度「ふるさと水と土ふれあい事業」の一環として自然を損なわない（地石をそのまま使用した）工法で景観道が完成し、おかげで農作業が楽になりました。この付近はまだまだ自然が豊富です。お静かにおいで下さい。

★バトンを渡す人

伊勢・三河湾の物議り士？東三河支部岩崎員朗さんをお願いします。

【福田智】（ふくたさとし・尾張）

平成9年に指導員に登録しました。新会員歓迎の最初の観察会で皿回しをした福田です。皿は目をつむっていても回せますが、仕事は思うようにまわせなくて困っております。今年4月から「愛知県環境部自然環境課」に勤務しており、主として藤前干潟のラムサール湿地登録の仕事をしています。

前回掲載の石田晴子さんと同じ職場ですので、会計の仕事をお手伝いすることになりました。よろしくお願いします。

★バトンを渡す人

名古屋支部「井城雅夫」さんをお願いします。

「アポイ岳でウォッチング」

名古屋支部・鈴木ひろ子

▼相生山緑地自然観察会のメンバー、近藤記巳子さん、石川登志子さん、そして私の女性3人が千歳空港に到着したのは7月8日の昼過ぎだった。JR様似（サマニ）終点からアポイ山荘に泊まり、翌朝朝霧の立つアポイ岳へ。途中の道端にも花が一杯でもうワクワクしてきた。

▼さあ！登ろう。樹林帯の小川の処の看板に、何々、うんうん、「ブラシで靴底を洗って下さい」。皆様ならおわかりと思うが、外来種の移入を防ぐ方法である。カツラやミズナラやダケカンバの林の道の側で「見つけた！」。座る・覗く・後へ下がる・回り込む、とまあ何時になったら一歩前へ出るのだろう。樹木はアカエゾマツ・ハクサンシャクナゲ・アカシデなど。鳥ではアオバト・ミソサザイ・ヤブサメ・コマドリ等。

▼アポイ岳の岩はカンラン岩といって、群青空＋空色＋灰色で岩々には縦に裂け目があり滑って登りにくい。赤の矢印とロープを頼りに一步一步登る。下を振りかえると様似漁港が見え、右、左に日高山脈の各々の山が裾を引いている。方向的に左手ののびやかな地形が襟裳岬だろう。

▼濃霧とカンラン岩の特殊土壌の影響により、アポイ岳では80種以上の貴重な植物が確認され世界中でここにしか見ることの出来ない固有植物も多数ある。この日はアポイハハコ・エリモシャクナゲ・エゾキンバイ・サマニオトギリ・チングルマ・イブキジャコウソウ・・・と60種以上観察する。



↑ 「ブラシで靴底を洗って下さい。」

▼昨年亡くなられた田中澄江氏も「驚く程の花の山である」と書いておられる。

下山の途中で大きな岩の間を清流が流れる。その側で動く物があつた。背色は・・・型はまるっぽい。尾は短い。ヤマシギ？頭を合わせてケンケン・ガクガク・・・（後日エゾライチョウS・P）

本当に驚きのアポイ岳行だった。

理事会だより

平成14年7月21日（日）に、名古屋市教育館で愛知県自然観察指導員連絡協議会の理事会が行われました。

本年度事業経過

初めに、各支部などの本年度の事業経過が報告されました。今年に入って、尾張支部、知多支部の20周年記念行事が行われ、9月には名古屋支部が計画しています。

事務局体制

次に現在進められている事務局体制の整備について、状況報告があり、今後の対応について意見交換がなされました。現在、近藤記巳さんと石井幸子さんが中心になって事務局グループが作られ、機関紙の83号より作成、名古屋メダカの研修会が行われました。今後はこのグループの体制を固めて、機関誌の編集とともに、会員対応事務、会計、各種会議の実施、他団体との対応などの事務が円滑にできるようにしていくことになります。この事務局グループの協議会の中の位置付けが理事会で問題となりました。昨年まで行われた組織検討委員会では、協議会の事業執行体制として、管理・企画・自然観察会・普及・研修・機関誌・保全・広報などの担当を置き、各事業を進めるのが良いとの方向付けがなされており、事務局グループはその中の管理・機関誌担当として位置付けるのがよいだろうとの意見が主で、その他の担当も一応担当者が決まっているので、その方を中心にグループを作っていこうという結論になりました。その状況により、規約等を整備していくことになります。

協議会の今後

ここで少し気になるのは、協議会はこれから何を目的として、どんな事業を展開してい

くべきかという議論がまったくなされていないことです。協議会は、何を協議するところであるか、社会に対してどんな役割を果たしていくか、或は協議会は単なる情報交換の場であるかが、もう少し話し合われても良いように思われます。しかし、一方でそれを求めるのは今の段階では無理かなとも感じられます。まずは体制を整えて、そのメンバーにより事業を考えていくことが、今の協議会には自然な方向かもしれません。

その他

その他、総会で意見のあった、会費の額の減額、支部配分金の分配方法、自然観察会での保険料の徴収方法については、当面現在のままとして、来年度事業の検討の中で考えていくこととなりました。また、近藤記巳さんと石井幸子さんを理事とすること、会計科目の使い方の一部変更、事務局所在地は、今年度は今のままでいくことなどが決まりました。

（報告・佐藤国彦）

理事・監事

大竹勝・竹内哲也・中西正・斎竹善行・間瀬美子・山田千宏・長谷川洋二・加藤寿芽・山原勇雄・梶野保光・杉山茂生・松尾初・鬼頭弘・青木雅夫・降幡光弘・佐藤国彦・石田靖子・石井幸子・近藤記巳子

コラム

少し寂しい秋の夜空

9月になると日暮れが早くなり、夏の盛りのころと比べれば、星が見え始める時刻も早くなります。頭の真上のあたりには、明るい星が多くてにぎやかな夏の星座が見え始めます。夏の暑い中で見る輝きとは、一味違った感じです。

夜半過ぎには、夏の星座は西に傾き、夏の大三角形も北西の空にうつります。白鳥座は、地面に立てた十字架のように見え、「北十字（星）」とも呼ばれます。頭上には、カシオペア座、アンドロメダ座、ペガサス座、ペルセウス座、ケフェウス座など、ギリシア神話に出てくるエチオピア王室の一族に関係する星座が見られます。王室という華やかに聞こえますが、星座を形作る星は、2等星よりも暗いものばかりです。実は、秋の夜空は明るい星が少なく、南の空にぼつんと光るホーマルハウトが唯一の1等星です。

秋の夜空はけっして華やかとは言えませんが、夏の喧騒の後には、なんとなく合っているように思えます。空の暗い場所で、じっくりご覧になってください。

文・吉村暁夫

●編集後記

ヒートアイランド、地球温暖化・・・この夏の暑さは、人間の生活の在り方に反省を迫っております。問題を投げかけております。自然を大切に、守り育てる。緑を減らさない、少しでも増やしたい。そんな思いに駆られております。

(名古屋支部・中西たかお)

●スタッフ

石井幸子、石田晴子、岩沙雅代、鬼頭弘、国安俊夫、近藤紀巳子、佐藤国彦、杉浦節子、中西たかお、浜口美穂、符川真弓、降幡光宏、古川俊江、松浦礼子、横井邦子、横田法子、吉田裕孝

●前号へのご意見・ご感想

▼新しい協議会ニュース読みました。とっても読みやすくて親しみやすいニュースレターだと思います。暑さと疲れでへろへろの頭でもすんなり読めるところがいいですね。ニュースレターはいろいろな人が読むわけですから、平易な表現や読みやすいレイアウトであることは大切なポイントなのではないでしょうか。(名古屋支部・鈴木晃子)

▼がらっと変わって、おもしろくて全部読みました。(東三河支部・間瀬美子)

▼協議会ニュース変身しましたね。紙質、構成が良くなり、スピードも早くなり、文に活気がみなぎっています。今後の活躍を期待します。(尾張支部・山田博一)

協議会ニュースに対するみなさまのご意見・ご感想を編集部までお寄せ下さい。(ハガキまたは封書で住所・氏名・支部名を明記し編集部まで。※下記参照)



【今号の表紙】 名古屋支部・松浦礼子

～ウバメガシ～

表紙絵のウバメガシは、枝先にチョココンとついている実の様子が何ともかわいく、つい描きました。

愛知県自然観察指導員連絡協議会 協議会ニュース編集部

491-0057 愛知県一宮市今伊勢町宮後

字西松山43-1 大野荘B-106 吉田裕孝